

# 全般季節予報支援資料 1か月予報

2024年8月22日

予報期間：8月24日～9月23日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## 特に注意を要する事項

期間の前半は全国的に気温がかなり高くなる見込みです。

## 出現の可能性が最も大きい天候

北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

東日本と西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

# 全般1か月予報

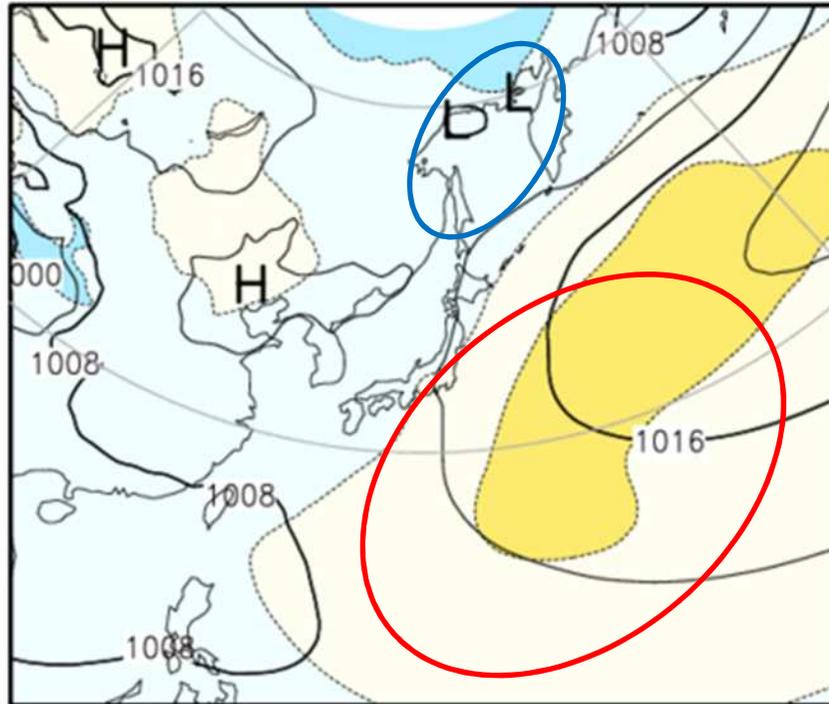
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	10:10:80	20:30:50	40:40:20	
	太平洋側		20:30:50	40:40:20	
東日本	日本海側	10:10:80	20:40:40	40:30:30	
	太平洋側		20:30:50	40:30:30	
西日本	日本海側	10:10:80	20:40:40	40:30:30	
	太平洋側		20:30:50	40:30:30	
沖縄・奄美		10:10:80	20:30:50	40:40:20	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:10:80	10:10:80	20:30:50
東日本	10:20:70	10:10:80	10:20:70
西日本	10:30:60	10:10:80	10:10:80
沖縄・奄美	10:30:60	10:10:80	10:10:80

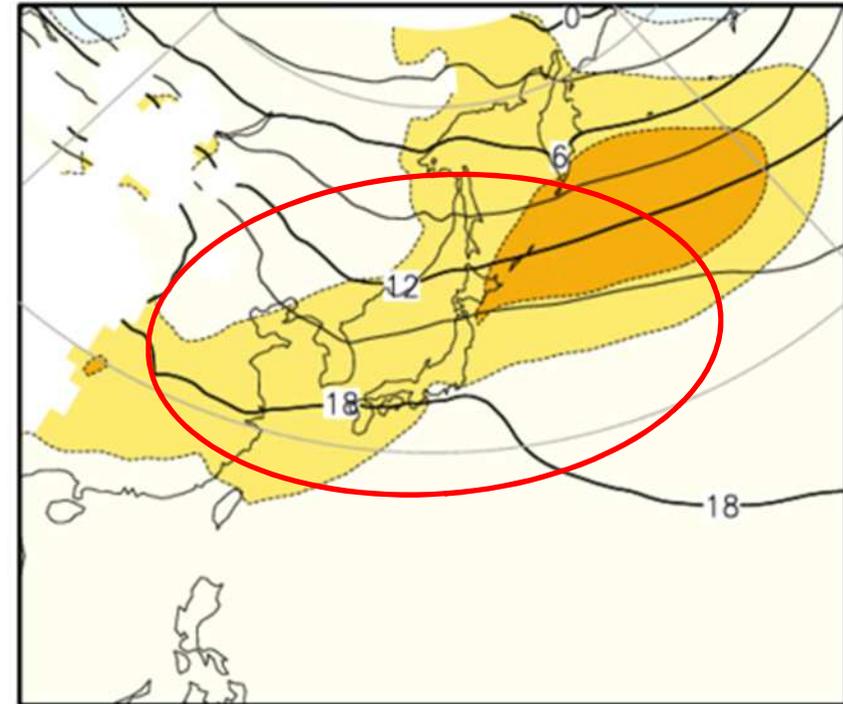
## 全般予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため全国的に高いでしょう。期間の前半は全国的に気温がかなり高くなる見込みです。
- ・向こう1か月の降水量は、低気圧、前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、北日本、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では多く、東・西日本日本海側では平年並か多いでしょう。また、向こう1か月の日照時間は、北日本と沖縄・奄美で平年並か少ないでしょう。

## 地上気圧(1か月)

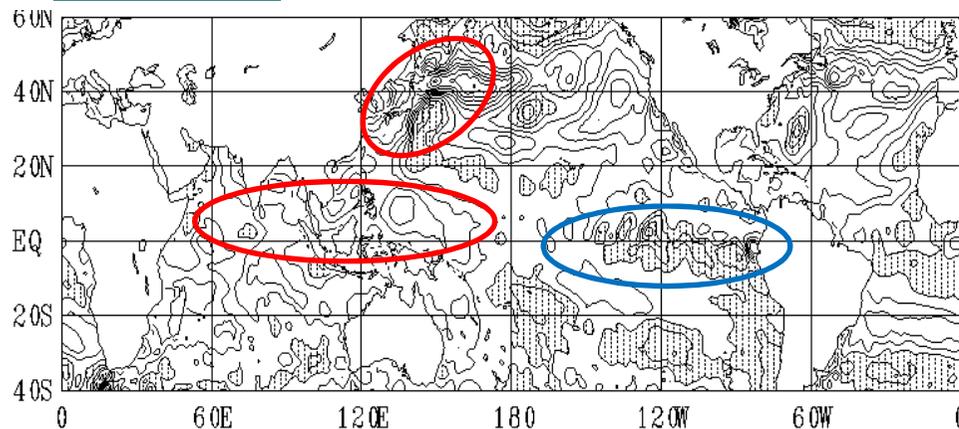


## 上空約1500mの気温(1か月)



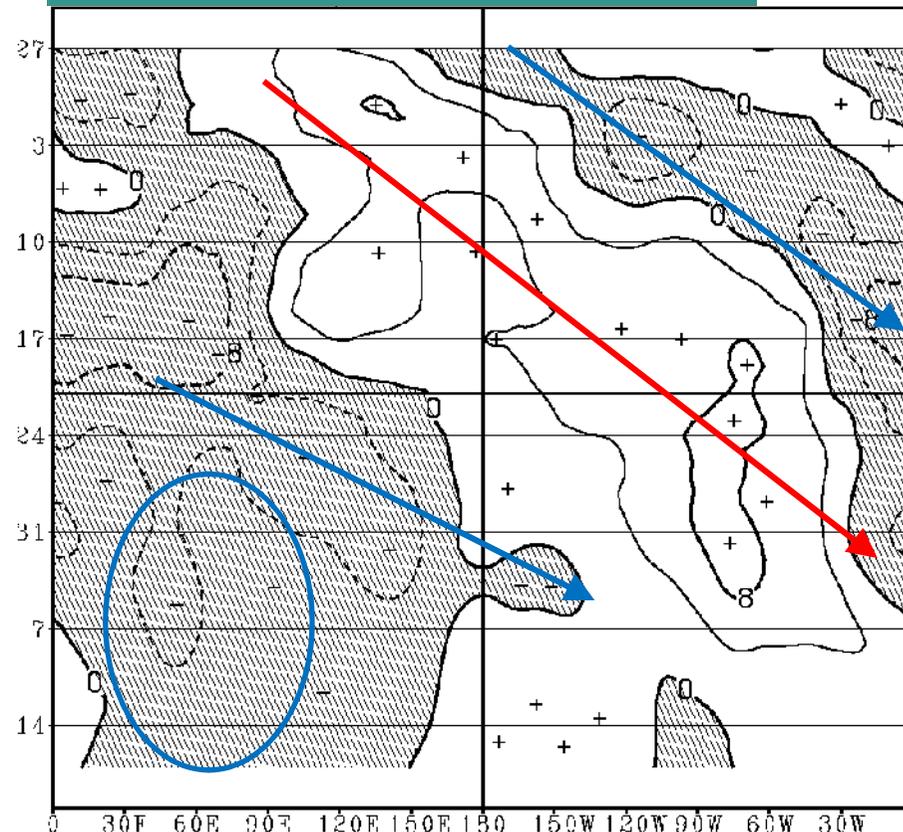
1か月平均の地上気圧(左図)は、太平洋高気圧が日本の南東を中心に強いでしょう。このため、日本付近は南から暖かく湿った空気が流れ込みやすく、熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすい時期があるでしょう。また、オホーツク海には低気圧があり、北日本では低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるでしょう。上空約1500mの気温(右図)は、全国的に平年より高く、暖かい空気に覆われやすいでしょう。

## SST偏差



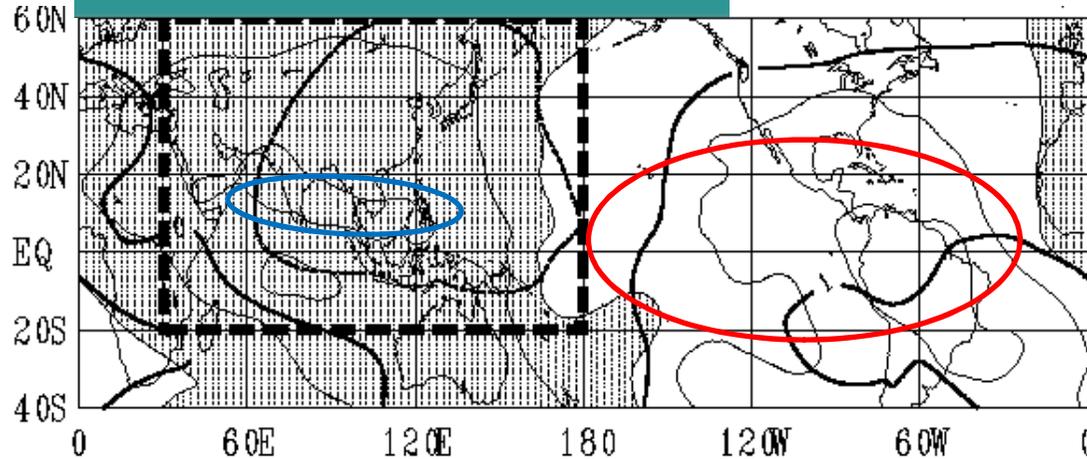
熱帯域では、インド洋から太平洋西部にかけて正偏差。太平洋東部では負偏差。これらはラニーニャ現象の特徴が現れ始めていることを示している。日本周辺海域で正偏差。

## 200hPa速度ポテンシャル偏差



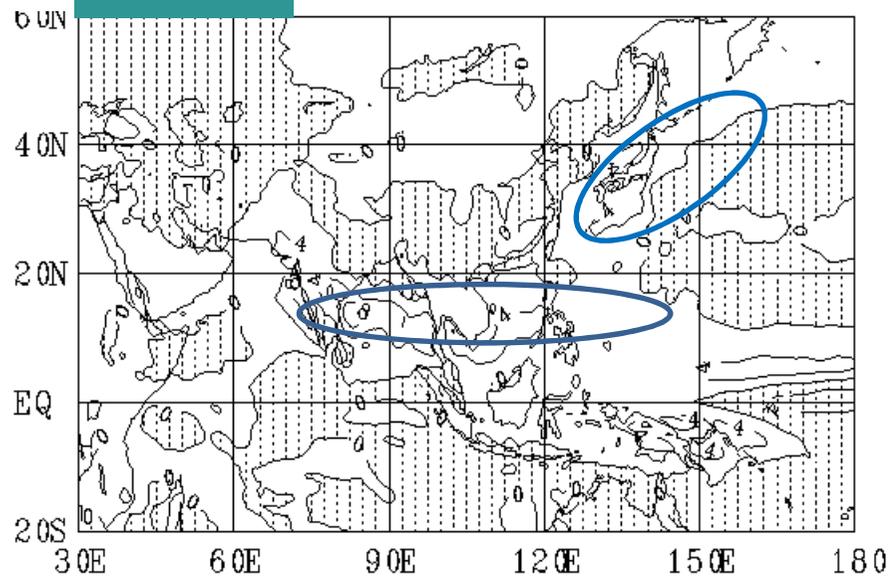
太平洋の対流不活発域は東進。インド洋付近で対流活発が継続。また、期間前半にかけてインド洋付近から太平洋中部付近へ対流活発域が東進。

## 200hPa速度ポテンシャル



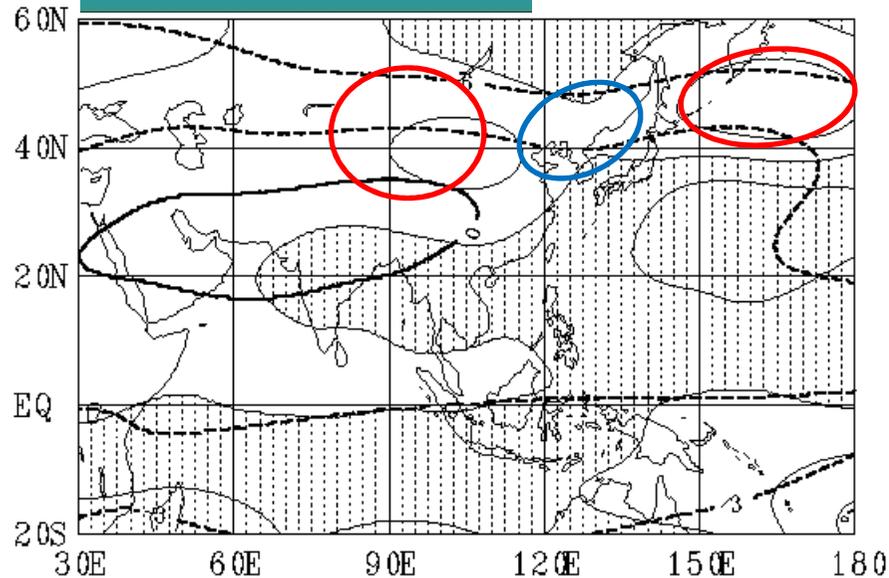
インド付近からフィリピン東方海上にかけて上層発散偏差。  
太平洋中部からアメリカ大陸にかけて上層収束偏差。

## 降水量



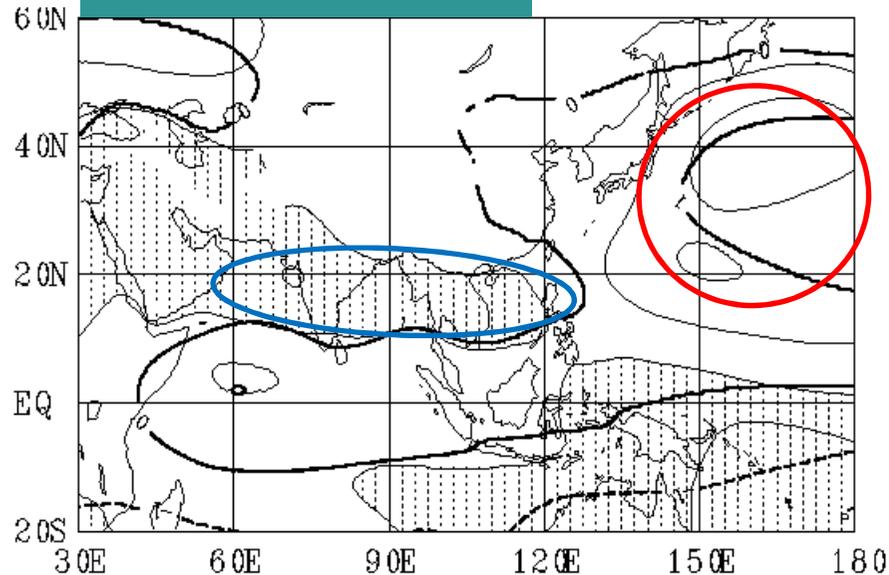
インド付近からフィリピンの東にかけて多雨偏差で、アジアモンスーン域の対流活動が活発なことを示している。北半球夏季の熱帯季節内振動と海面水温の影響を示唆。  
日本付近も多雨偏差。

## 200hPa流線関数



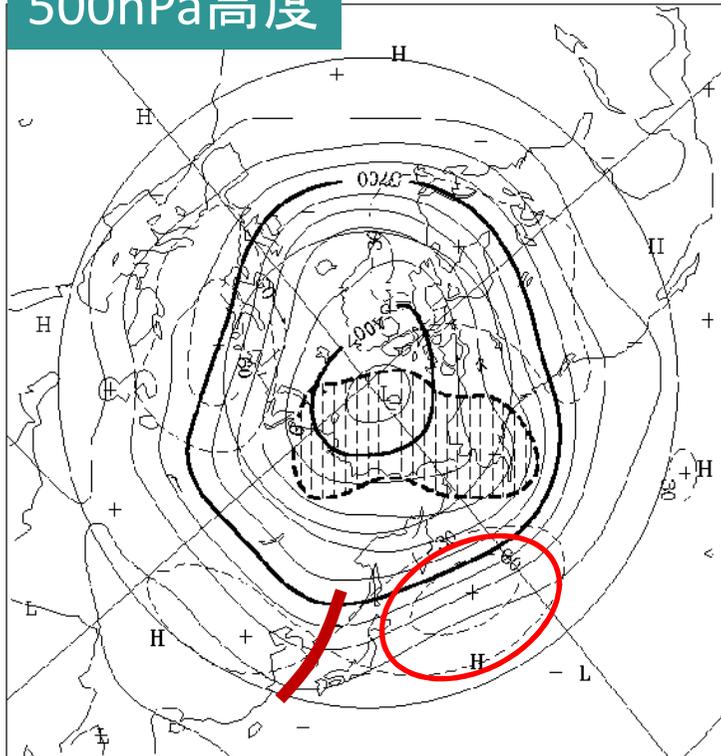
亜熱帯ジェット気流沿いの波東伝播の影響で、モンゴル付近と千島の東で高気圧性循環偏差。一方、朝鮮半島付近に相対的な低気圧性循環偏差。

## 850hPa流線関数



アラビア海から南シナ海にかけて低気圧性循環偏差、日本の南東には高気圧性循環偏差。アジアモンスーン域の活発な対流活動の影響があるとともに、日本の東の高気圧性循環偏差には、上層の循環の影響がある。

## 500hPa高度



500hPa高度では、熱帯から中緯度にかけて、日本を含み帯状に広く正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

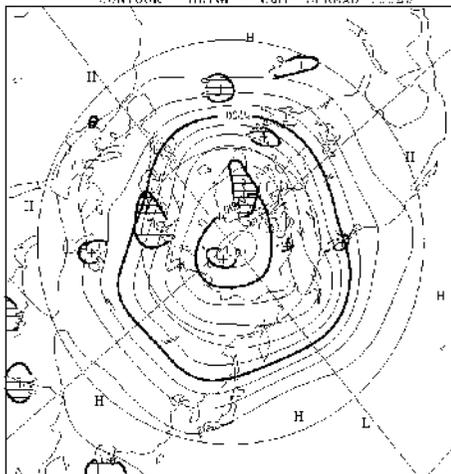
その中で、日本の東には特に強い正偏差域がある一方、中国東北区から東シナ海にトラフが予測され、日本付近は西谷。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

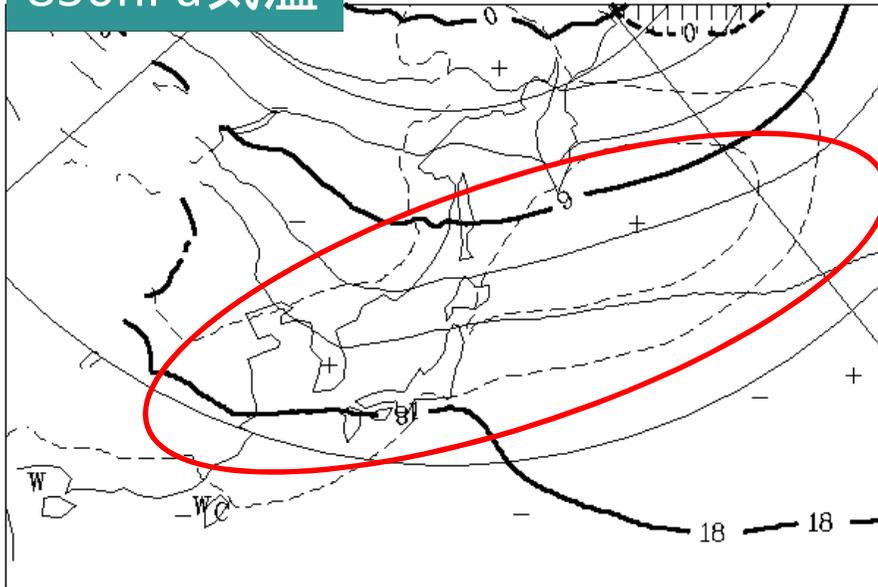
PROJ. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 600 SPREAD: 0.25

CONTOUR S.D.: 200 PROB.: 0.25

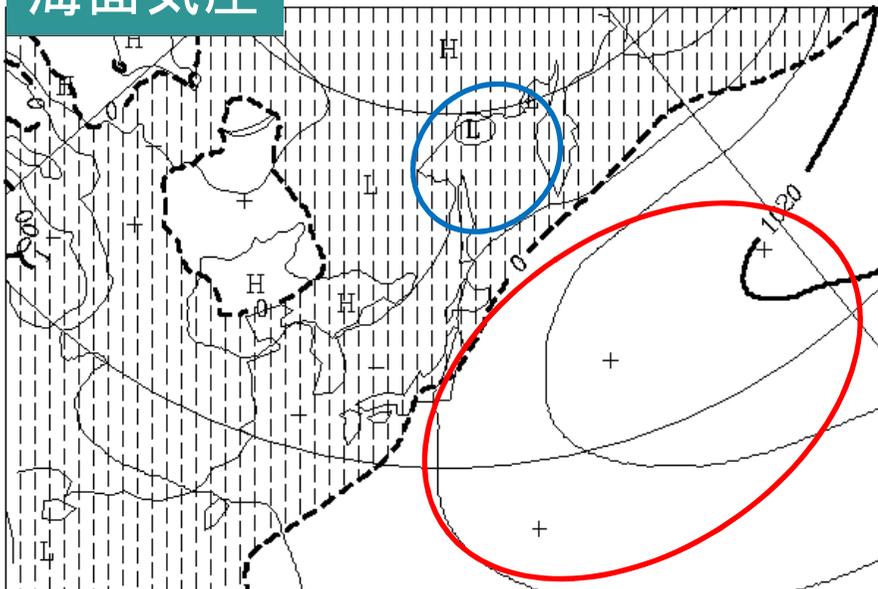


## 850hPa気温



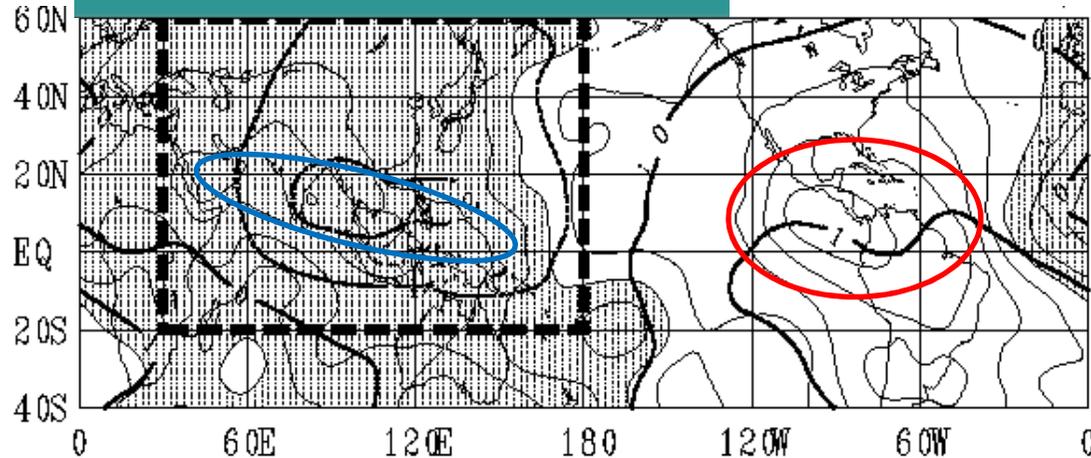
日本付近は上空の高温偏差に覆われる。日本付近は暖かい空気に覆われやすく、気温が上昇しやすい。

## 海面気圧



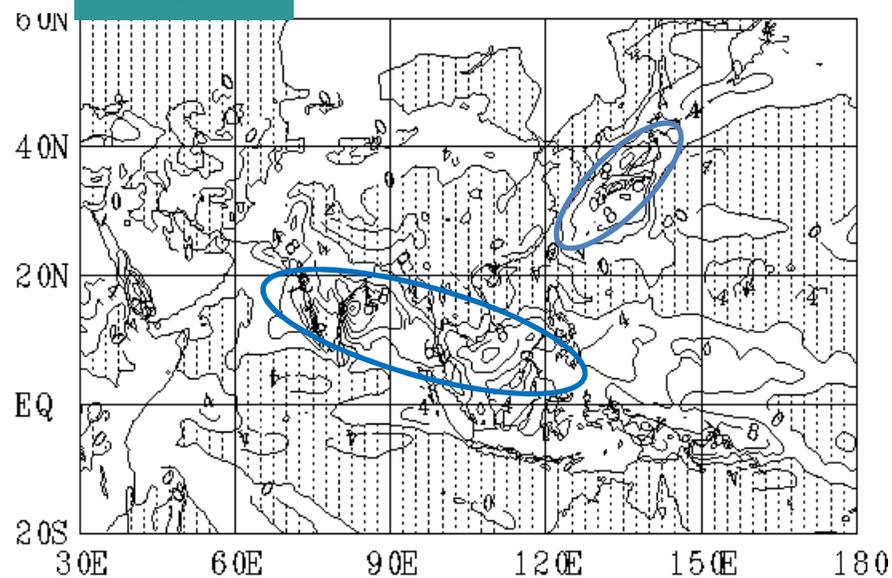
太平洋高気圧が日本の南東を中心に強い。このため、日本付近は南から暖かく湿った空気が流れ込みやすく、熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすい時期がある。また、オホーツク海には低気圧があり、北日本では低気圧や前線の影響を受けやすい時期がある。

## 200hPa速度ポテンシャル



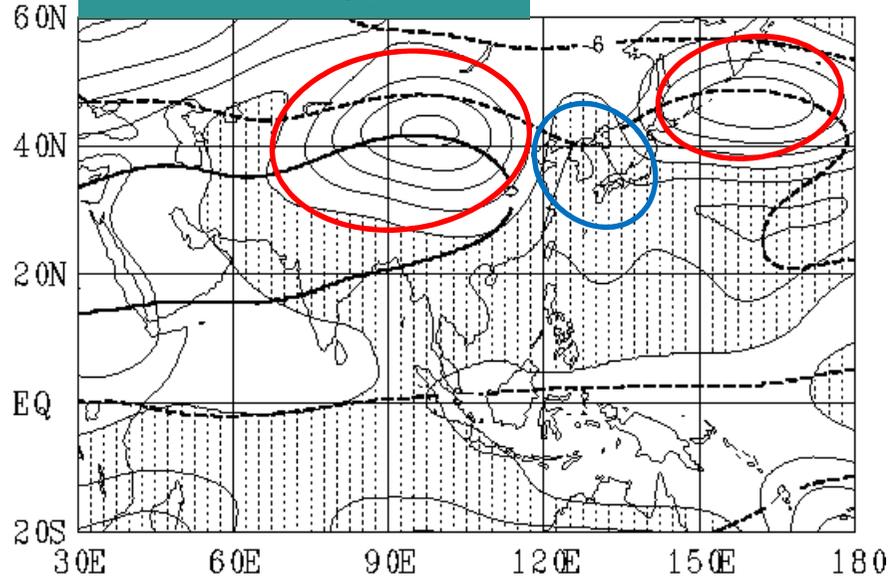
アメリカ大陸付近で上層収束偏差の一方、アラビア海からインドネシア付近にかけてを中心を上層発散偏差。北半球夏季の熱帯季節内変動の位相を反映。

## 降水量



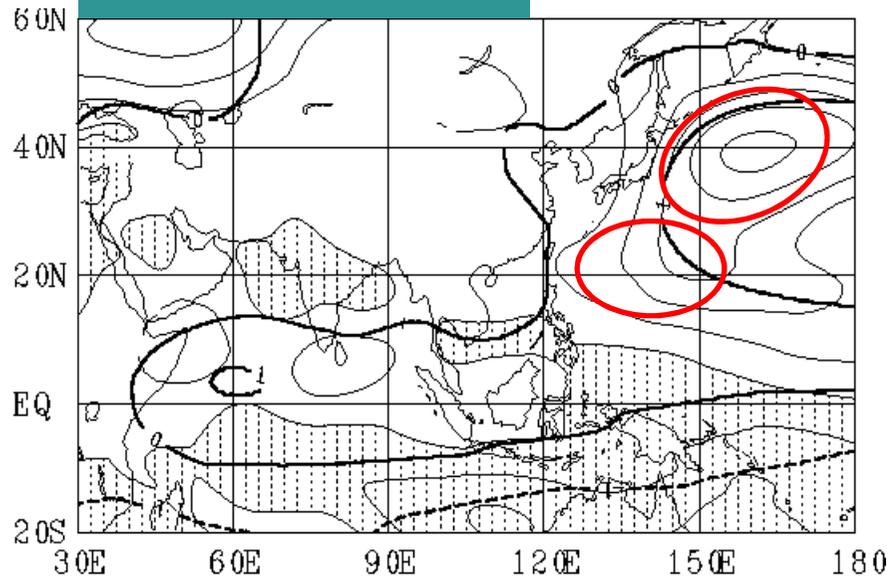
アラビア海からインドネシア付近にかけて多雨偏差。また、日本の南から日本付近にかけて多雨偏差。台風第10号の影響を含む。

## 200hPa流線関数



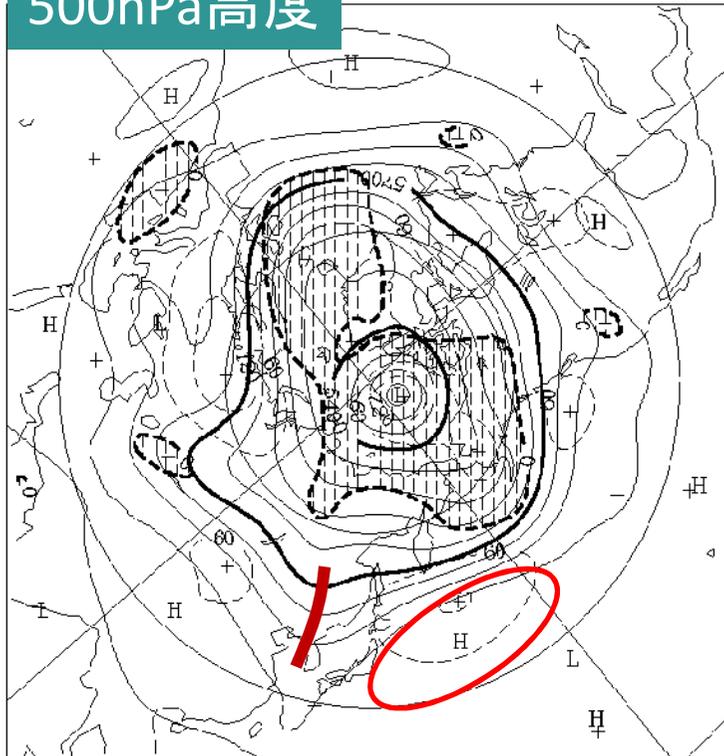
亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播の影響で、モンゴル付近と千島の東付近で高気圧性循環偏差、その間の朝鮮半島付近で低気圧性循環偏差。

## 850hPa流線関数



日本の東から南にかけて高気圧性循環偏差。

## 500hPa高度

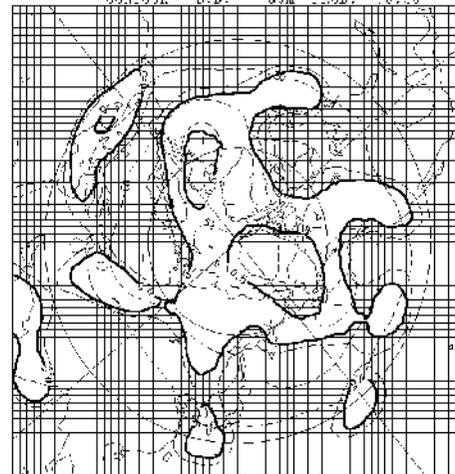
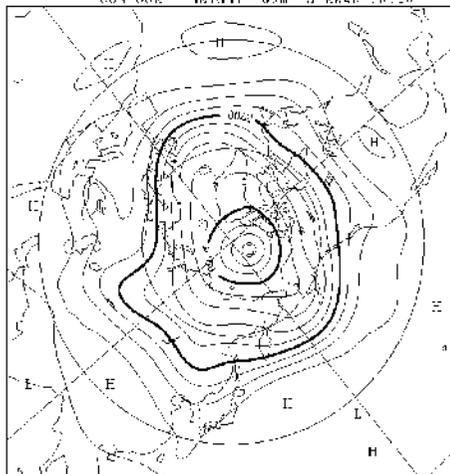


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20

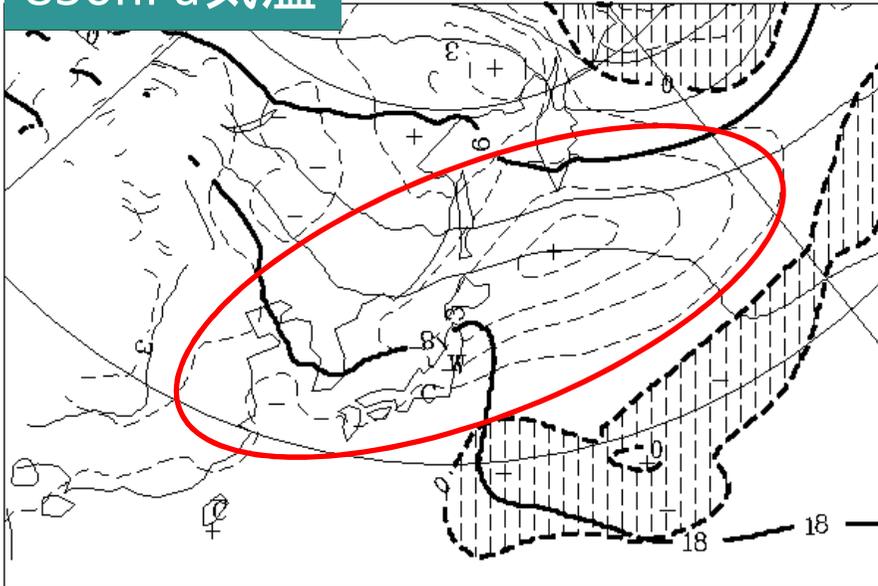
CONTOUR S.D.: 33m PROB.: 0.25



500hPa高度では、日本付近は正偏差に覆われ、沖縄・奄美を除き、高偏差確率が50%以上の領域に覆われる。

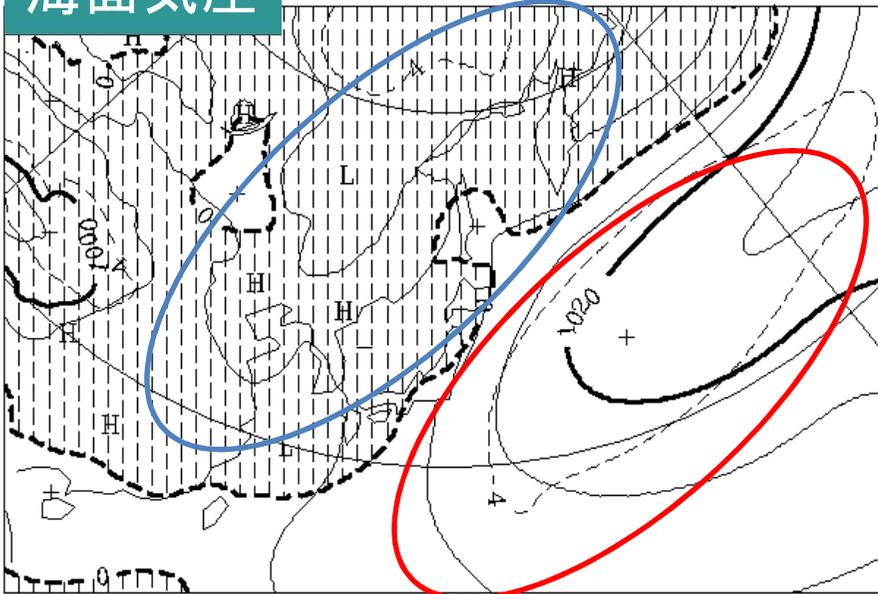
日本の東に強い正偏差域がある一方、中国東北区から朝鮮半島にかけてトラフがあって、日本付近は西谷の流れ。このため、太平洋高気圧の縁を北上する暖かく湿った空気が上昇流となりやすい。

## 850hPa気温



日本付近は、正偏差域に覆われる。特に北日本では強い正偏差。

## 海面気圧



太平洋高気圧が日本の東から南で強い。

一方、日本の北と西は負偏差で、日本付近は、低気圧、前線や太平洋高気圧の縁を回って流れ込む暖かく湿った空気などの影響を受けやすい。

## 想定される天候

北・東・西日本と沖縄・奄美では、低気圧、前線、湿った空気の影響で、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

### <気温>

・暖かい空気が流れ込みやすいため、全国的に気温が高く、気温がかなり高くなる所もある。

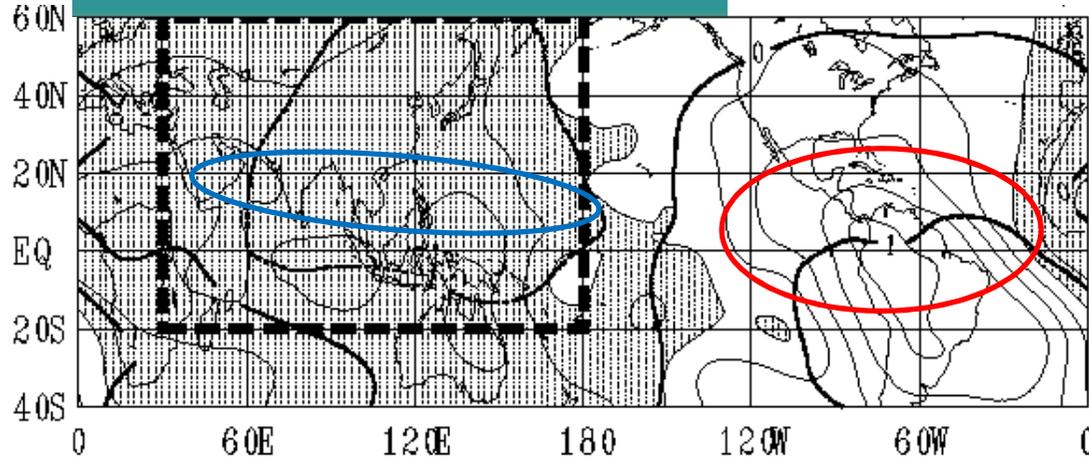
### <天候>

・北日本では、低気圧、前線や湿った空気の影響で多雨寡照。東日本日本海側は、多雨傾向で寡照。

・東日本太平洋側と西日本では、台風第10号や湿った空気の影響で、多雨寡照。

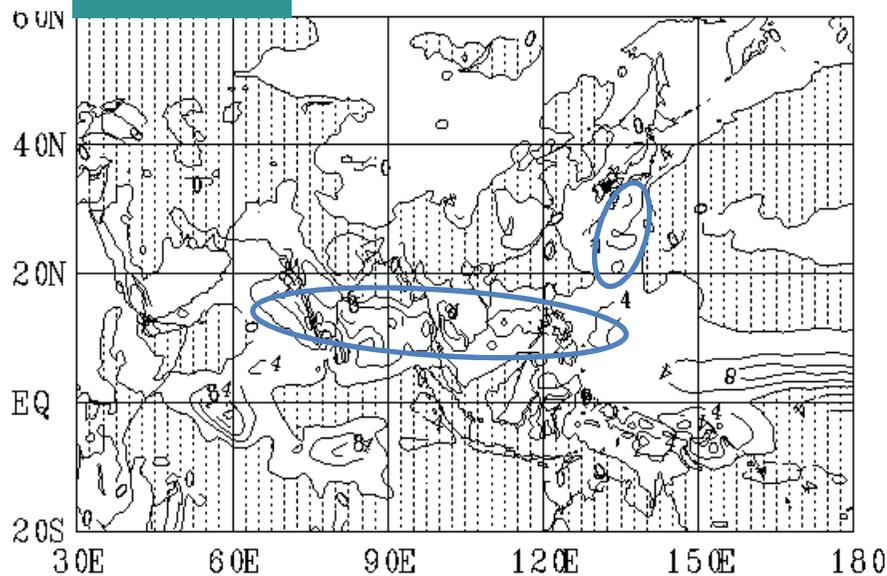
・沖縄・奄美では、湿った空気の影響で、多雨寡照。

## 200hPa速度ポテンシャル



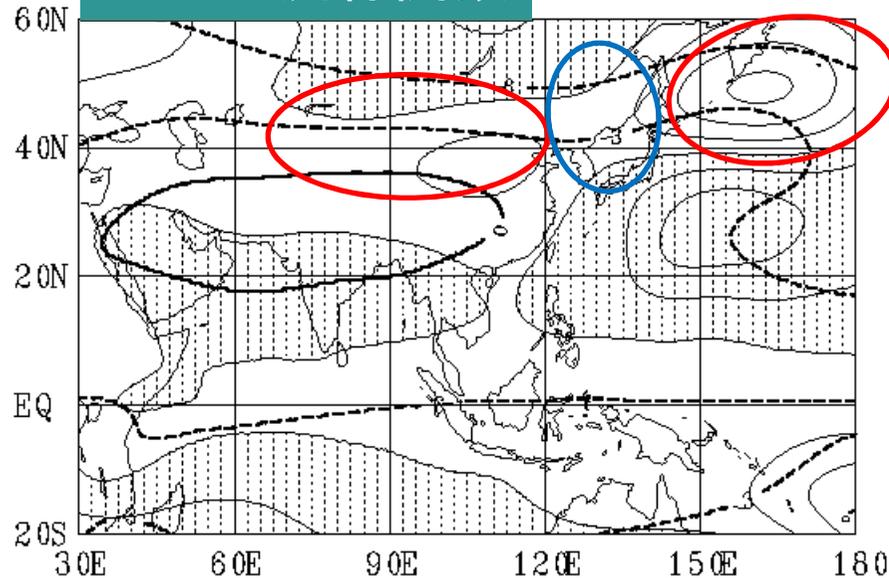
アメリカ大陸付近で上層収束偏差の一方、アラビア海からフィリピンの南東海上にかけてを中心に上層発散偏差。北半球夏季の熱帯季節内変動の位相を反映。

## 降水量



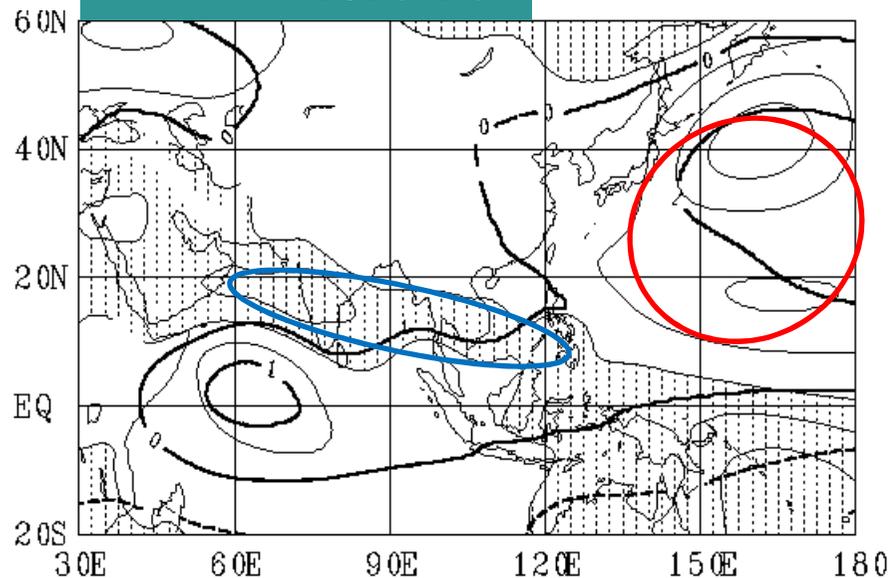
インド付近からフィリピンの東にかけて多雨偏差。また、日本の南から日本付近にかけて多雨偏差。

## 200hPa流線関数



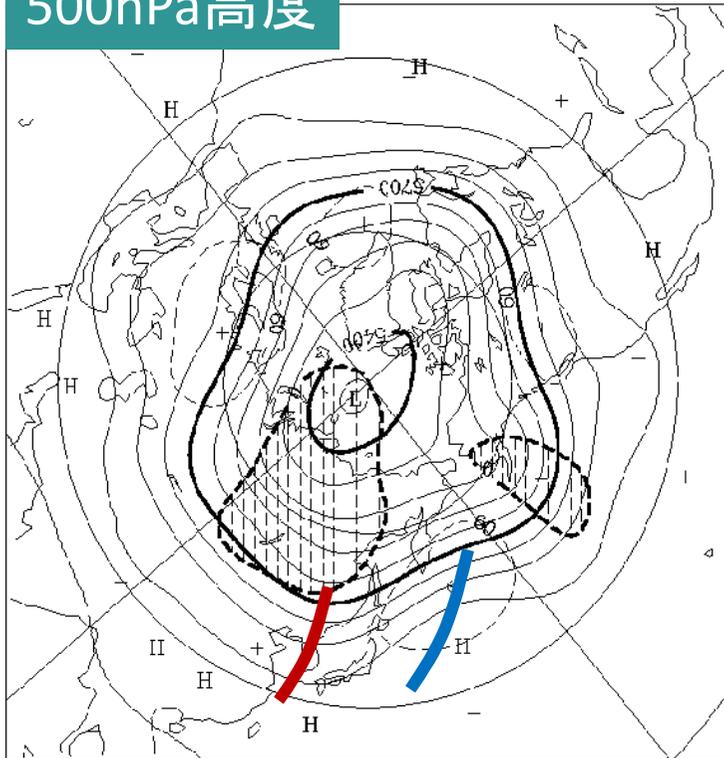
亜熱帯ジェット気流沿いの波東伝播の影響で、モンゴル付近と千島の東で高気圧性循環偏差。中国東北区付近で相対的な低気圧性循環偏差。

## 850hPa流線関数



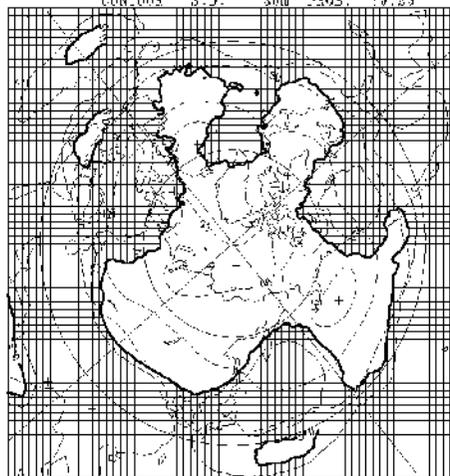
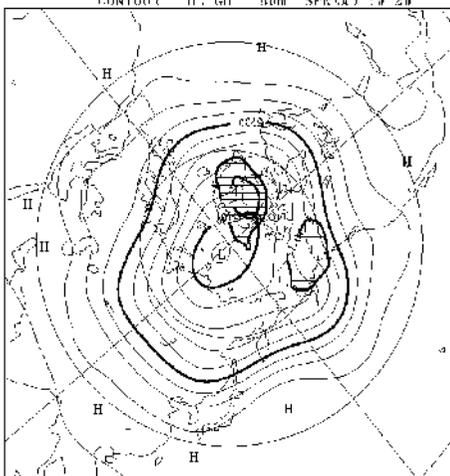
アラビア海から南シナ海にかけて低気圧性循環偏差、日本の南東には高気圧性循環偏差。アジアモンスーン域の活発な対流活動の影響があるとともに、日本の東の高気圧性循環偏差には、上層の循環の影響がある。

## 500hPa高度



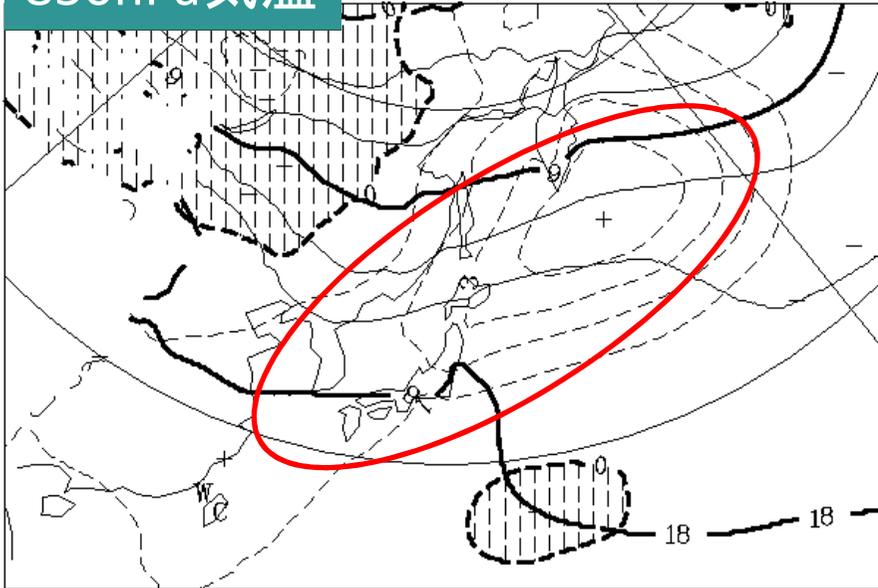
500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.



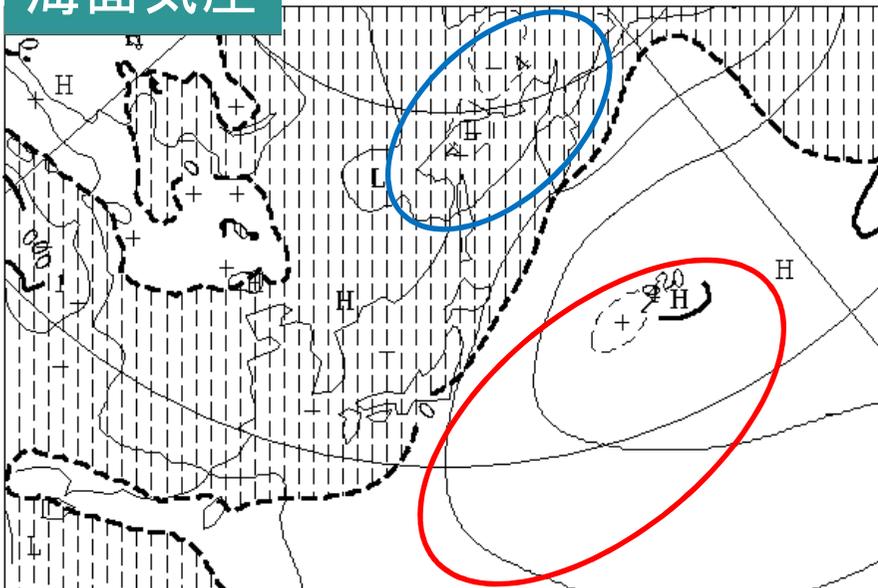
500hPa高度では、熱帯から中緯度にかけて、日本を含み帯状に広く正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。その中で、日本のはるか東にはリッジ、中国東北区から東シナ海にはトラフがあって、日本付近は西谷。スプレッドは小さい。

## 850hPa気温



日本付近は、高温偏差域に覆われる。特に、北日本での正偏差が強い。

## 海面気圧



太平洋高気圧が日本の東から南で強く、日本付近には暖かく湿った空気が流れ込みやすい。また、オホーツク海付近に低気圧があり、北日本ではその影響を受けやすい。

## 想定される天候

北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。  
東日本と西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。  
西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。  
沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

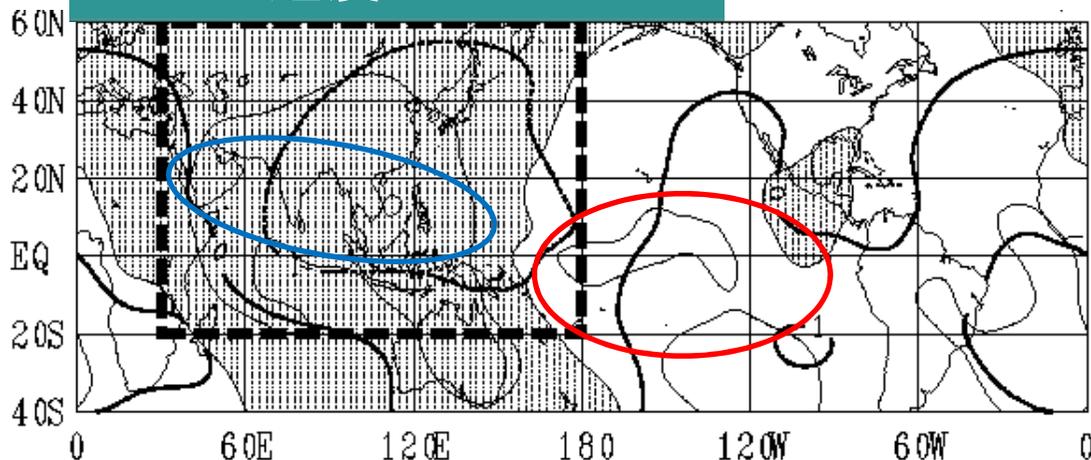
### <気温>

・暖かい空気が流れ込みやすいため、全国的に気温がかなり高くなる見込み。

### <天候>

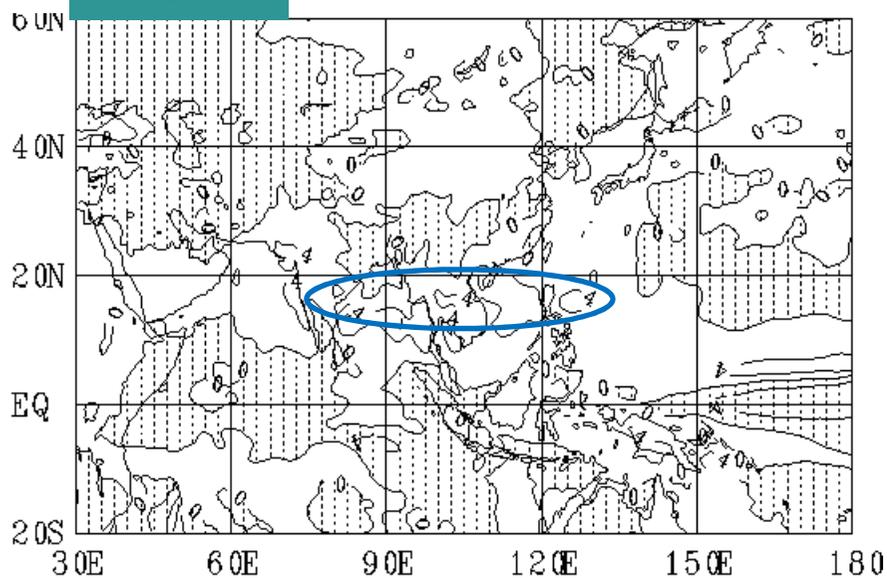
- ・北日本では、低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすいため、多雨で寡照傾向。
- ・東日本日本海側では、一時的に低気圧や湿った空気の影響を受け、やや多雨で並照。
- ・東・西日本太平洋側では、湿った空気の影響を受けやすいため、多雨傾向で並照。西日本日本海側ではやや多雨で並照。
- ・沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすいため、多雨寡照傾向。

## 200hPa速度ポテンシャル



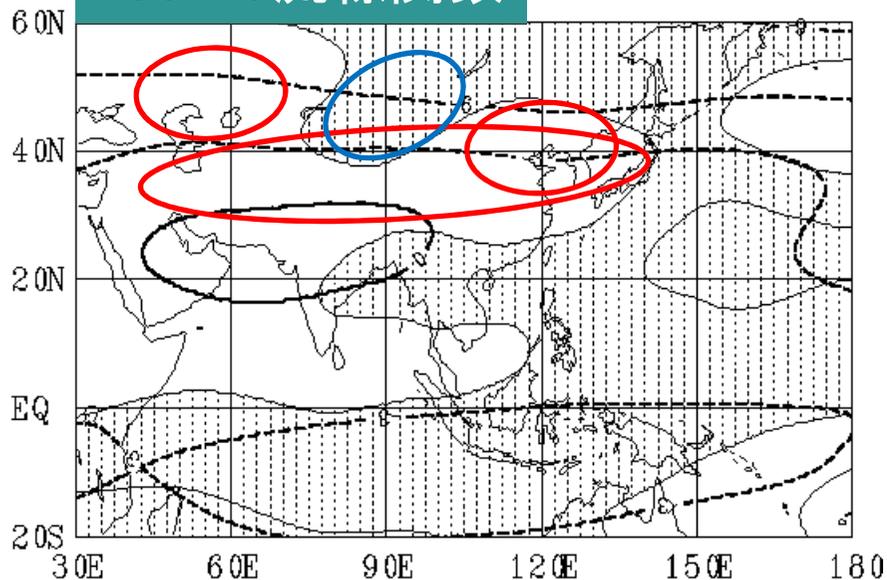
中部から東部太平洋で上層収束偏差の一方、アラビア海からフィリピンの東海上にかけてを中心に上層発散偏差。海面水温と北半球夏季の熱帯季節内変動の位相を反映。

## 降水量



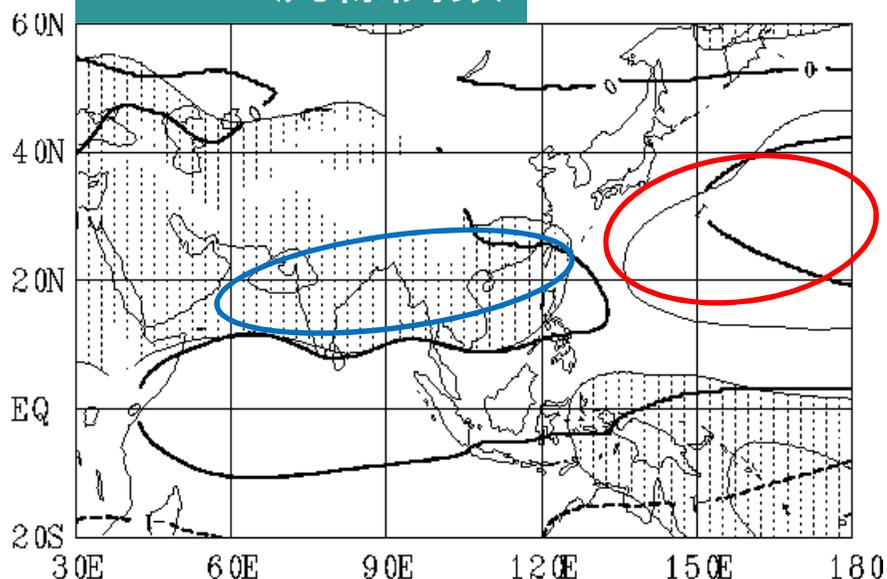
ベンガル湾からフィリピンの北東海上にかけて多雨偏差。

## 200hPa流線関数



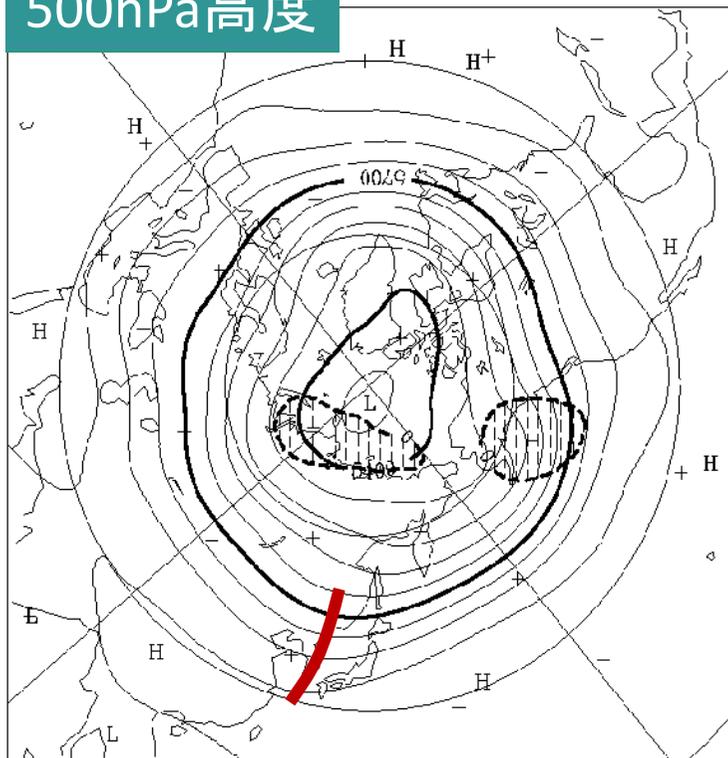
カスピ海付近から千島の東にかけて帯状に高気圧性循環偏差で、アジアジェット気流の北偏に対応。これに、波列が重なり、華北付近に高気圧性循環偏差の中心がある。

## 850hPa流線関数

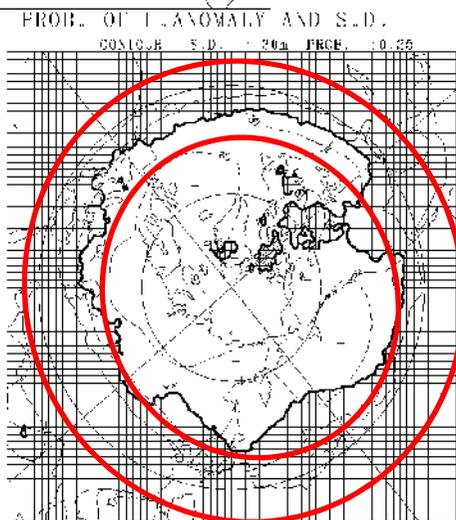
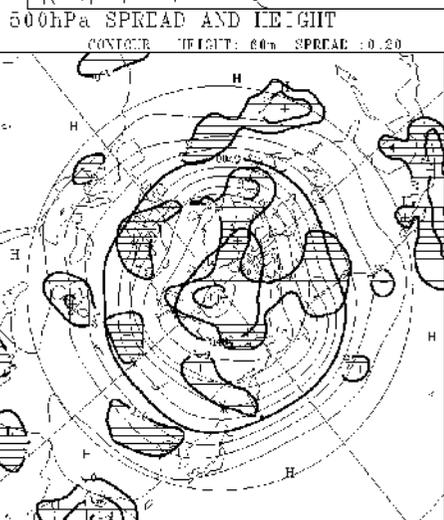


アラビア海から南シナ海にかけて低気圧性循環偏差、日本の南は高気圧性循環偏差。

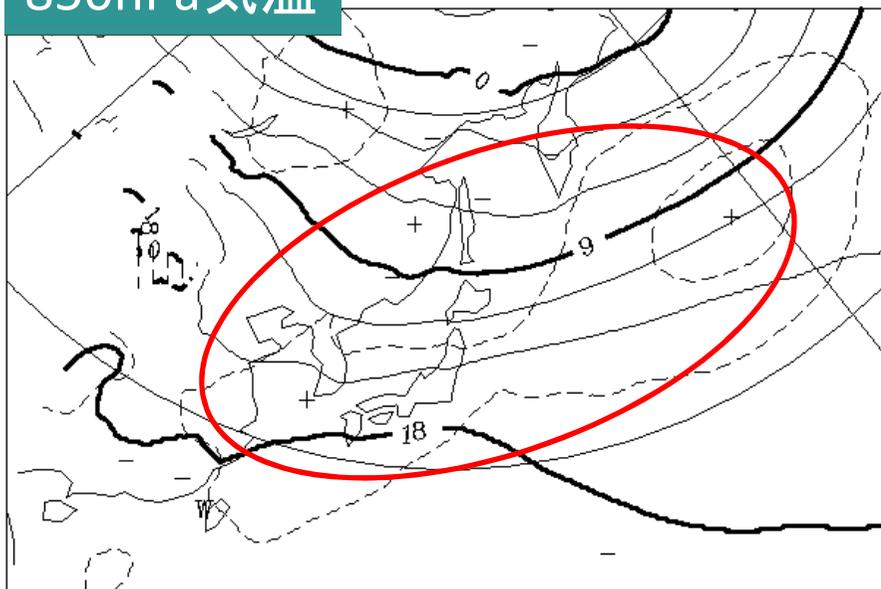
## 500hPa高度



500hPa高度では、熱帯から中緯度にかけて、本州以南を含み帯状に広く正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。2週目までよりは浅くなるものの、平年程度の西谷傾向は持続する予測。

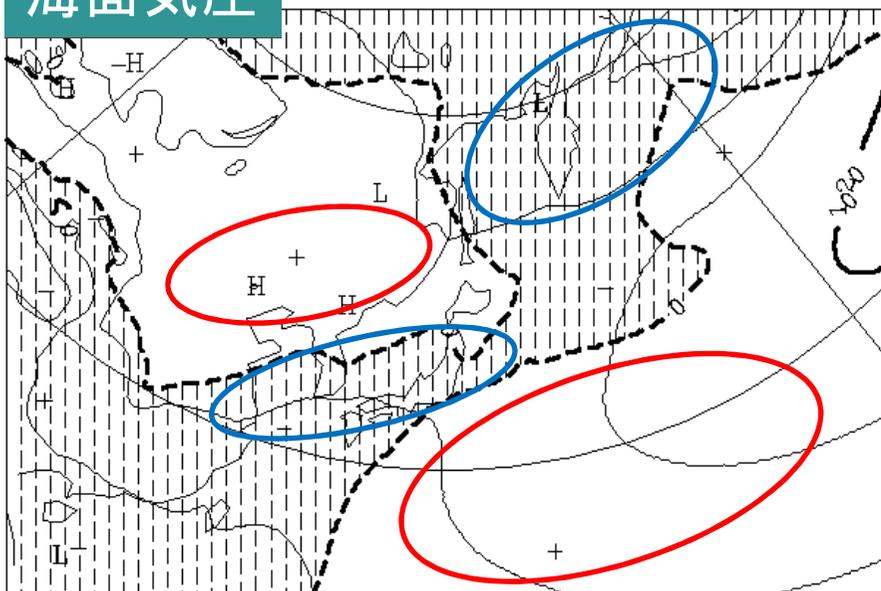


## 850hPa気温



日本付近は、高温偏差域に覆われる。  
日本付近は暖かい空気に覆われやすいが、高温偏差の中心は東・西日本となる。

## 海面気圧



太平洋高気圧は日本の南で強い一方、中国大陸には高気圧が出現する。その間の日本付近は、負偏差で本州付近は前線帯となる。また、オホーツク海付近には低気圧があり、北日本はその影響を受ける時期がある。

## 想定される天候

北・東日本と西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。  
西日本太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

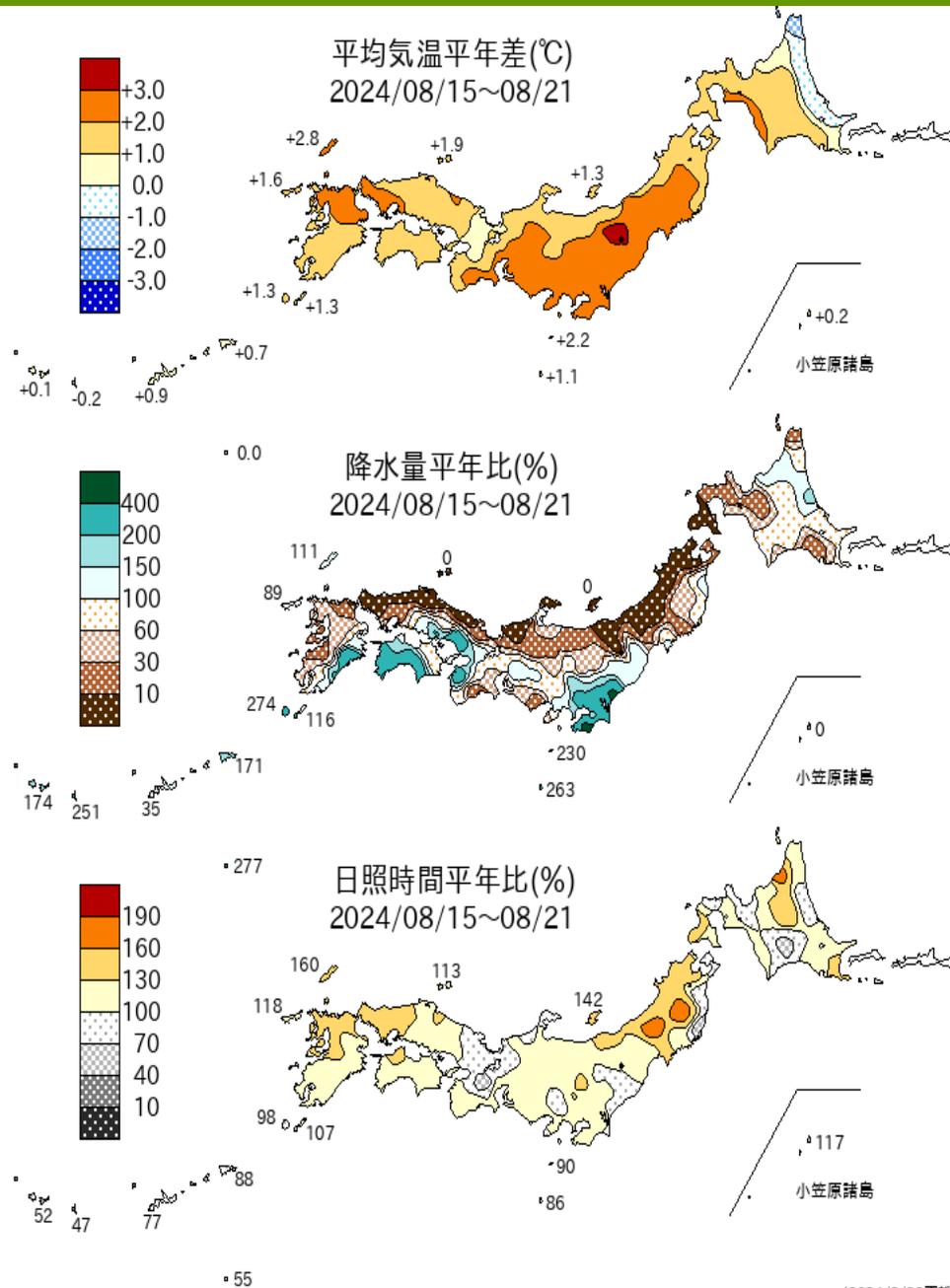
### <気温>

・暖かい空気に覆われやすいため、全国的に気温が高くなる見込み。

### <天候>

・全国的に並雨並照。

# 最近1週間の天候経過



最近1週間(8月15日~8月21日)は、関東甲信地方では台風第7号の影響で、西日本太平洋側と沖縄・奄美では台風第9号と湿った空気の影響で、それぞれ大雨となりました。一方、それらの影響が小さかった北・東・西日本日本海側では降水量が平年を下回りました。

気温は、暖かい空気に覆われ、また、南から暖かい空気が流れ込んだことから、ほぼ全国的に平年に比べ高く、岐阜県的美濃で16日に40.0°Cを記録するなど、東・西日本を中心に猛暑日となった所も多くなりました。